

1. はじめに

本委員会では、三大スポーツイベント(ラグビーW杯、東京オリンピック・パラリンピック、関西ワールドマスターズゲームズ)が開催される2019～2021年をターゲットイヤーとし、関西の課題の洗い出しを実施。さらに、2021年以降も見据えた長期的な観点から、関西の活性化策を広範に議論した。本提言では、スポーツイベントの開催に焦点を絞り、特に関西で開催されるワールドマスターズゲームズが地域へ与える効果を最大化するための取組み等を提言する。

2. 現状分析

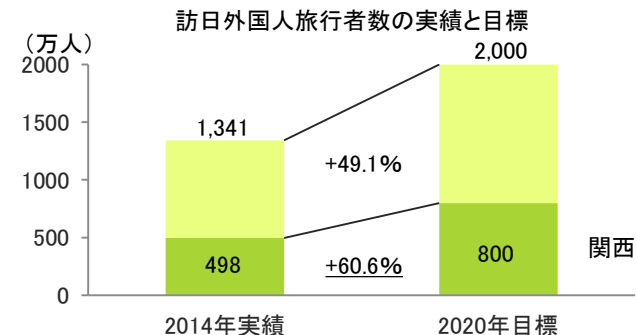
(1) わが国及び関西のインバウンドの現状

- 訪日外国人旅行者数は2014年1～12月で1,341万4千人(JNTO推計値)。過去最高であった2013年を更新。
- 国の観光戦略及び施策を背景に、アジアを中心にインバウンド拡大。国・地域別のマーケティングが重要。
- 2020年を目標に、関西では800万人(2013年対比 2.3倍)の外国人旅行者数を目指す。

観光立国実現に向けた政府の取組み(抜粋)

- 免税制度の拡充、免税店の拡大
- 戦略的なビザ免除・要件緩和(タイ・マレーシア・インドネシア・フィリピン・ベトナム等)
- 空港での入国審査体制整備(時間短縮に向けた取組み)
- 無料Wi-Fiの整備促進
- 多言語対応の改善・強化
- ムスリム旅行者への適切な情報提供
- 訪日プロモーションの体制整備・戦略的拡大(中国、東南アジア等)
- 安全・安心の確保(医療通訳、外国人患者の受入)

(資料)観光庁



※ 関西について、2014年実績は観光庁「訪日外国人消費動向調査」結果を用いた推定値。また、2020年目標値は関係連「関西広域観光戦略(案)」による。(資料)観光庁、日本政府観光局(JNTO)、関西経済連合会

(2) 三大スポーツイベントの開催

- 2019～2021年にかけて、わが国で国際的なスポーツイベントが行われる。関西では2021年にワールドマスターズゲームズを開催。観光インバウンド強化に向けた各種施策の進捗も踏まえると、三大スポーツイベントが開催される2020年前後は、関西にとっても大きなチャンス。
- 関西を世界に向けてアピールし、さらにその効果を次世代に残していくための戦略的な取組みが必要。

国際イベント	概要	各イベントの概念
2019 ラグビーW杯	<ul style="list-style-type: none"> 来日観戦者数予想30～40万人 関西は、大阪府・東大阪市、神戸市の2都市での開催が決定。 開催期間は約7週間と長期間に 	
2020 東京オリンピック・パラリンピック	<ul style="list-style-type: none"> 文化プログラム: 全国での開催を計画中 経済効果(生産誘発額)は、全国で約3兆円(招致委員会試算) 	
2021 関西ワールドマスターズゲームズ(WMG)	<ul style="list-style-type: none"> 参加者は約5万人、うち2万人は外国選手を目標 競技種目は陸上競技、サッカー等コア必須16種+オプション競技(ラグビー、野球等)を検討中 経済効果は、約140億円(関西広域連合試算) 	

(資料)本委員会会合資料より作成

(3) 関西圏で進捗する様々なプロジェクト

- スポーツイベント以外にも、関西では2020年前後に向けて、各種インフラ整備が進捗する予定。
- 関西のポテンシャルをより高めるために、これらを有機的に結び付けながら推進していく必要あり。

項目例	現状	展望・課題
IR	<ul style="list-style-type: none"> 2014年7月: 内閣官房にIR検討チーム設置 2015年通常国会: 推進法及び関連法案の成立を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> 地域全体への影響も含め、関西が求めるIRのあり方を明確化
関空	<ul style="list-style-type: none"> 外国人旅客数が日本人を上回り、過去最高を更新(2014年: 630万人) コンセッション: 1次入札を延期、企業側との直接協議を前倒し実施へ 	<ul style="list-style-type: none"> LCCの中核空港としての発展 利用者にとって魅力的な空港へ
特区	<ul style="list-style-type: none"> 国家戦略特区(関西圏): 区域計画認定済。医療関連の2項目を指定 関西イノベーション国際戦略特区: 全国トップの認定件数 	<ul style="list-style-type: none"> 医療産業など、強みの強化 その他分野(雇用、都市等)への波及
インフラ	<ul style="list-style-type: none"> ミッシングリンク、港湾施設整備 多言語対応、無料Wi-Fi、統一交通パス創設、ホテル、深夜の交通アクセス等 リニア中央新幹線: 東京-名古屋間の計画認可 	<ul style="list-style-type: none"> 不足しているリソースへの対応(規制緩和も同時進行で) 関西・名古屋・東京の一大経済圏

(資料)本委員会会合での議論をもとに作成

3. 提言

WMGIに向けて、関西が1つになってビジョンを策定・共有し(提言1)、地域が主体となった取組みを実行(提言2)することで、関西全体としてのレガシー創出を(提言3)

(提言1) 2021年のWMGIに向けて、オール関西で共通の理念を策定・共有しよう

ビジョン

- 関西全体で理念を共有する仕組みの構築
 - ・ビジョン策定に向けた検討委員会を設立(関西広域連合や官民連携組織であるWMG組織委員会の傘下に設置する等)
 - ・観光インバウンドの拡大という面から、「広域観光研究会」との連携も目指すべき
 - ・ビジョンの例: 「Share & Social」⇒ 性別・年齢・国籍・障がい等を問わず、みんなが参加し、社会が支えるというコンセプト
- ビジョンによる一体感の醸成・大会に向けた機運を高める
 - ・各地が開催する既存のスポーツ大会・プレマスターズ大会に共通のビジョンを使用し、横串をさす
 - 【参考】東京オリンピックのビジョン: 3つの基本コンセプト⇒「全員が自己ベスト」「多様性と調和」「未来への継承」
 - 「スポーツには、世界と未来を変える力がある。1964年、日本は変わった。2020年は史上最もイノベティブで、世界にポジティブな変革をもたらす大会とする。」

(提言2) WMGIを成功させるための取組みを実行しよう

アクション

- 「場」と「輪」と「和」の提供に向けた取組みの実行(地域の企業・住民が主体的に関わる)
 - ・場=ロケーション: 大会やイベント、事前キャンプ、練習会場の確保・準備(利用可能施設の洗い出し等)
 - ・輪=コミュニティ: 運営団体、スポンサー、クラブ運営、学校教育との連携、ワンストップでの大会エントリーシステムを整備(ポータルサイト等): 交流の場としての機能等
 - ・和=サービス: 一市町村一國フレンドシップ事業、既存の祭り・イベントを活かして、大会を盛り上げる芸術・文化イベント実施(WMGでも文化プログラム実施[オリパラで終わらせない])
- 社会問題の解決
 - ・ゴミのリサイクル等の環境配慮型の大会運営、宿泊施設としての空き家活用といったコストを抑えた対応
- 緩やかながらも、継続性・包括性を持った連携: 各都市が個別施策で競い合いつつ、関西全体でやるべきことは協力する
 - ・今後実施されるプロジェクト(プレ大会等)と連携し、関西全体で策定したビジョンと「はなやか関西」を継続的に活用する
- 推進組織・実行体制の整備・協力とチェック機能の発揮
 - ・まずは京阪神の同友会が継続的に対話しながら、関西全体に徐々に動きを拡大
 - ・関西全体での関連施策の進捗を定期的にチェックし、次のアクションへ向けた課題提起等を行う
- WMGIに合わせた文化プログラム
 - ・地域毎の独自プログラムの一部を組織委により認証する制度の導入⇒公認プログラム実施で、関西全体での一体感を醸成
 - ・東京オリンピック・パラリンピックでの文化プログラムとの連続性も考慮
 - 【参考】2012年ロンドンオリ・パラでの文化プログラム⇒イベント総数: 約18万件、参加者数: 4,340万人、総事業費: 220億円
- オークランド大会が開催される2017年から、2021年に向けた組織的対応を加速⇒早期に工程表を作成する必要あり



(提言3) 2021年以降に関西に残すべきものを明確化しよう

レガシー

- 2021年以降も国際的なスポーツイベントを持続的に誘致できる地域となるための取組みを強化
 - 生涯スポーツの聖地へ⇒「関西」といえば「生涯スポーツ」の定着、医療と合わせたアピールで「健康都市」のイメージ醸成
 - ・運営ノウハウの蓄積、ボランティア・通訳等の人材養成を各スポーツイベントを通じて進め、それらを継続的に活用できる仕組みを2021年のWMGIで確立。
 - ・記念日(マスターズデー・ウィーク)の制定(年1回)。スポーツイベント等を連続開催し、生涯スポーツへの取組み拡大や、意識向上へ。
 - ・大会前にレガシーを明確化(目標値設定) ⇒ 2012年ロンドンオリンピック・パラリンピックでも大会前に目標を設定
 - 【参考】2012年ロンドンオリンピック・パラリンピックのレガシー(抜粋)
 - : 運動する人(週1回)の増加(140万人以上)、スポーツ国際交流(20カ国1,500万人)、ボランティア増加(10万人/2013年)文化・環境意識向上(ISO20121国際標準規格)

4. おわりに

- ・WMGIは、2019～2021年にわたる世界的なスポーツイベントの最終年に開催。2020年までの様々な取組みを活かして、大会後も見据えた関西全体の活性化を実現させるために、本大会は絶好の機会であり、関西が1つになって取組む最後のチャンス。
- ・関西が生涯スポーツの聖地となるためには、まずは2019年ラグビーW杯の関西(神戸市・東大阪市)での試合を満員にする等、地域全体で盛り上げ、スポーツ振興の機運を高めることが不可欠。WMGI成功へ向けたよい流れをつくる。
- ・三大スポーツイベントに加え、インバウンドの一段の拡大、インフラ整備等、関西が直面する積み残しの課題について議論を深め、関西活性化の戦略・工程表を早急に纏めるべき。ターゲットイヤーまであと5年前後しかない。今こそ、オール関西で行動する時。